



令和 6 年度

横浜氷取沢高等学校

グローバル教育研究推進指定校

公開研究授業

～他者とのやりとりを通じて、多様な価値観を尊重し、
自ら問いを見つけ、問題解決できる力を育む指導と評価の研究～

日 時 10月25日（金）13：30～16：00（受付開始 13：00）

第Ⅰ部 公開授業 13：30～14：20

第Ⅱ部 研究協議 14：30～15：20

第Ⅲ部 全体会 15：30～16：00



ご挨拶

本日は横浜氷取沢高校公開研究授業にお越しいただきありがとうございます。

本校は、令和4年度よりグローバル教育研究推進校に指定され3年目となります。この間、「国際的な視野を持ち、主体的に考え、探究することができる力」・「自らの課題に挑戦し、自己を伸ばし続ける姿勢をもつ力」・「多様な価値観を尊重し、他者と共同して問題解決できる力」の育成を目指し、それぞれの教科特性を踏まえた指導と評価の研究を行ってきました。

本年度は、全教科における教科横断的な取組みとして「他者とのやりとりを通じて、多様な価値観を尊重し、自ら問い合わせを見つけ、問題解決できる力を育む指導と評価の研究」というテーマを設定し、授業改善を行って参りました。取組成果をご覧いただき、多くのご助言をいただけましたら幸いです。

令和6年10月25日

神奈川県立横浜氷取沢高等学校

校長 坪内 幸子

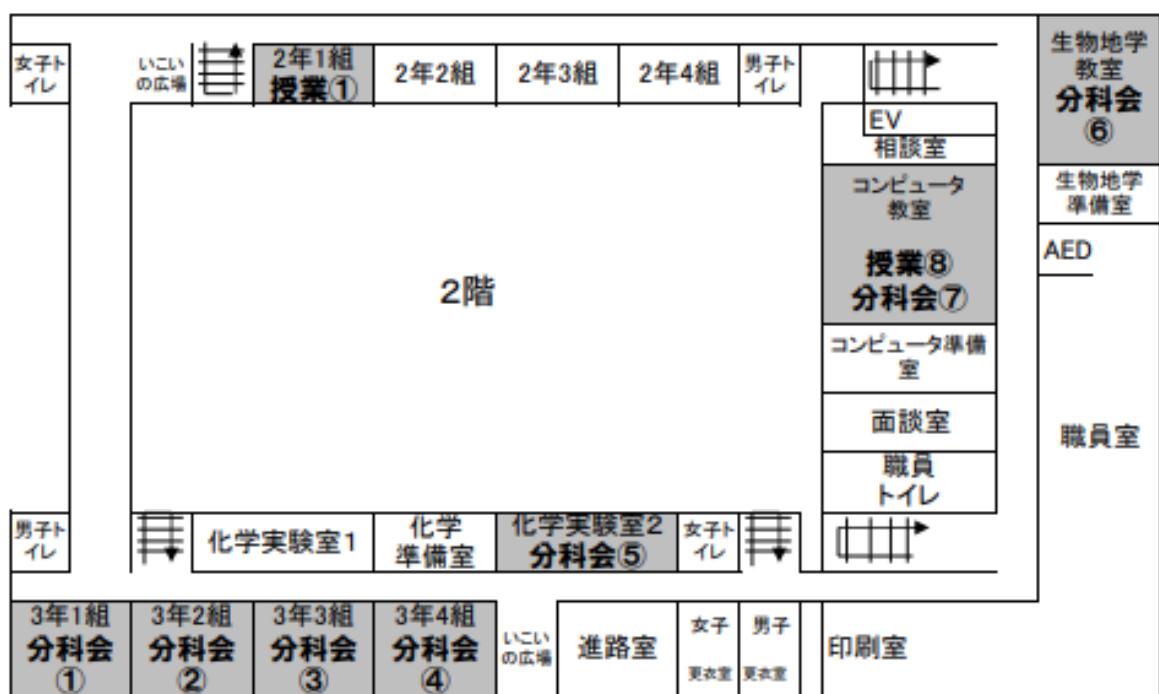
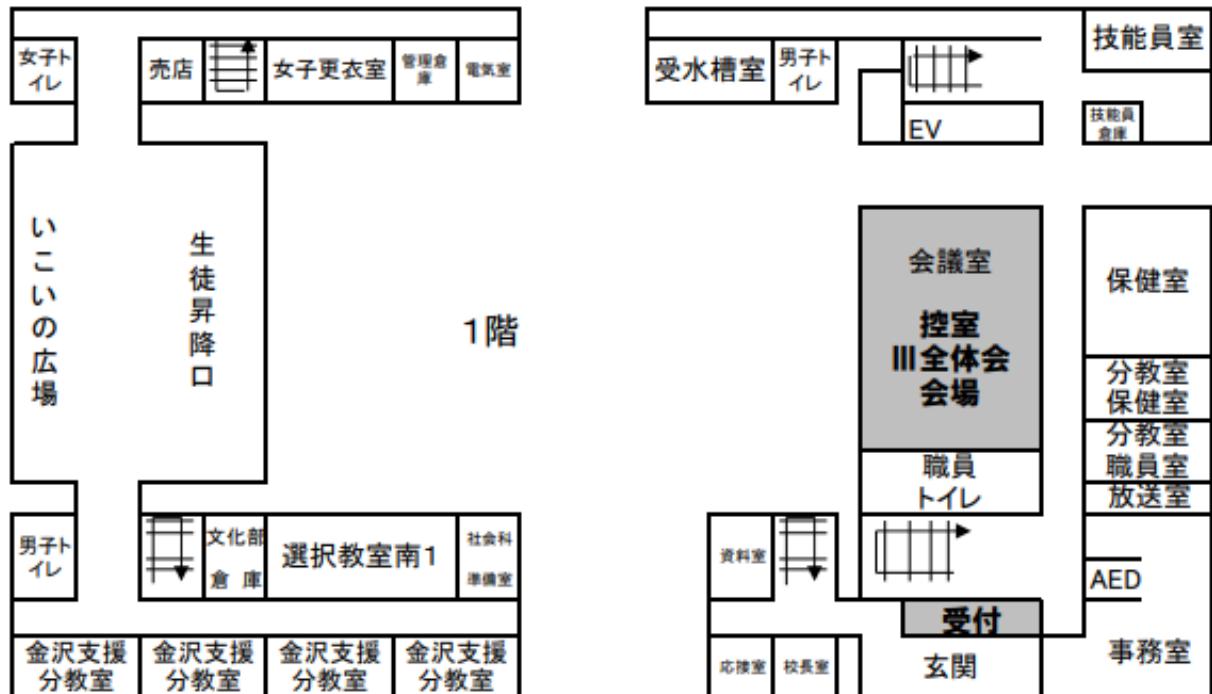
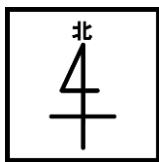
講座一覧

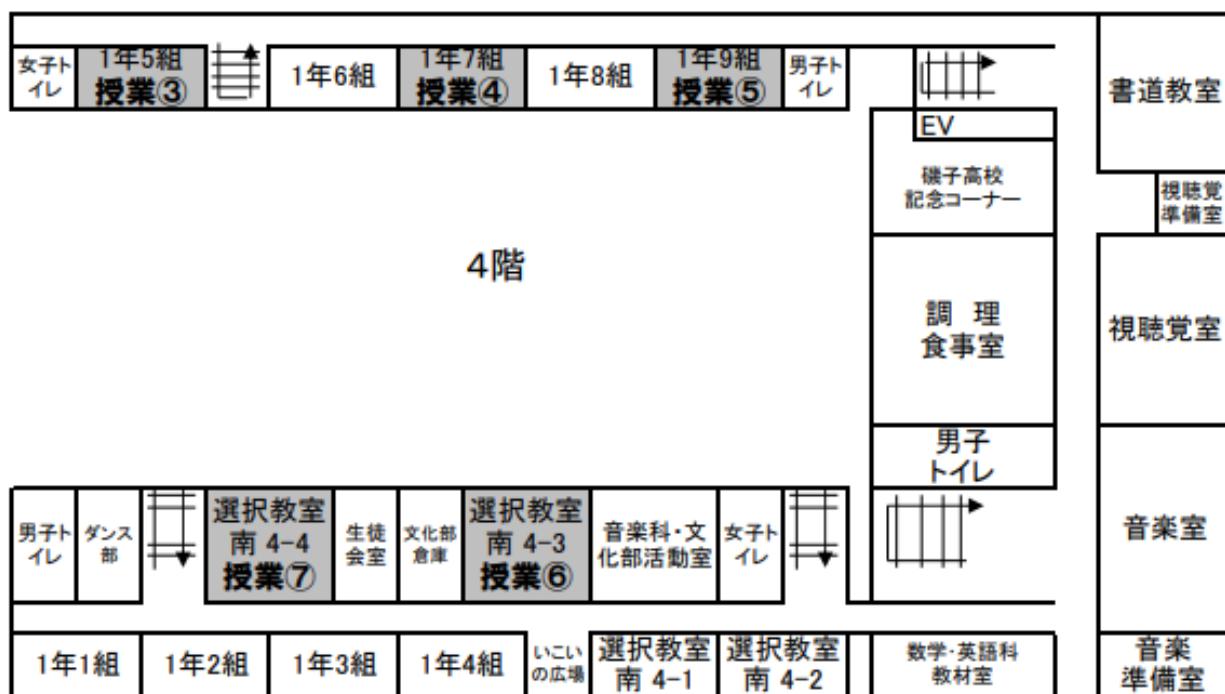
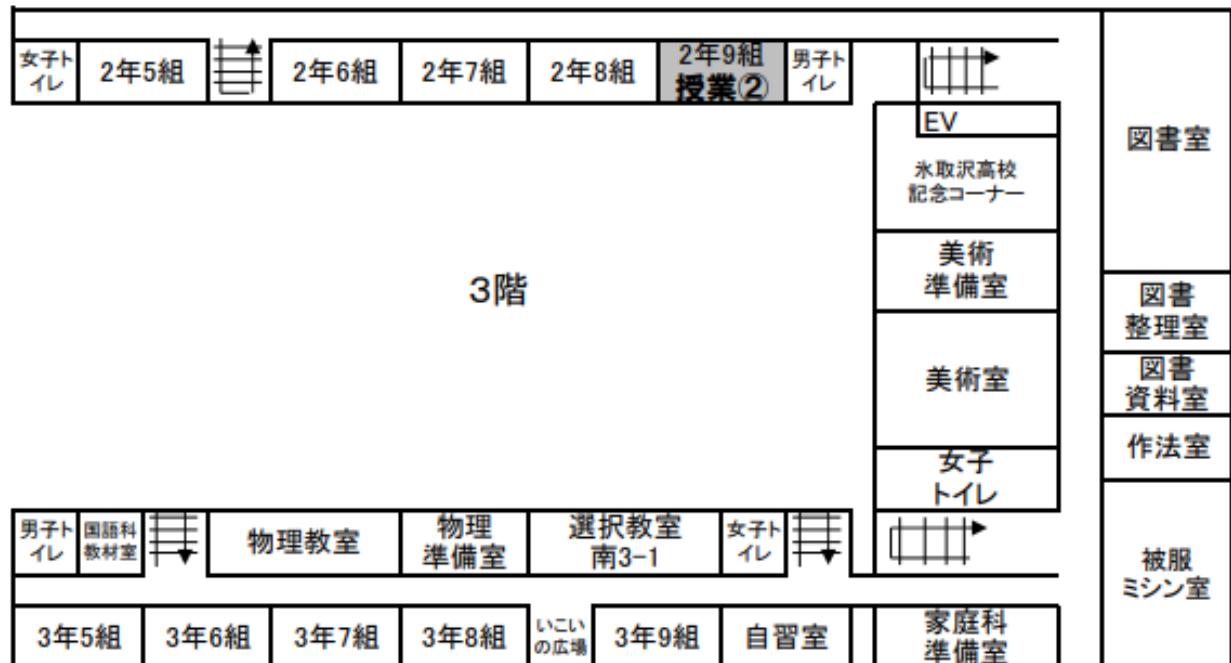
No.	教科	科目	授業者	会場
①	国語	古典探究	中村 麻由	2年1組教室 (北棟2階)
②	公民	公共	永井 淳	2年9組教室 (北棟3階)
③	数学	数学A	安居院 健太	1年5組教室 (北棟4階)
④	理科	生物基礎	諸星 愛子	1年7組教室 (北棟4階)
⑤	保健体育	保健	加藤 智大	1年9組教室 (北棟4階)
⑥	外国語(英語)	論理表現II	井澤 拓海	南4-3教室 (南棟4階)
⑦	外国語(英語)	コミュニケーションスキルズI	若杉 拓哉	南4-4教室 (南棟4階)
⑧	情報	情報I	早川 康人	コンピュータ教室 (東棟2階)

分科会一覧

	教科	司会	記録	会場
分科会①	国語	大団 柚季	牧野 有見	3年1組教室 (南棟2階)
分科会②	地理歴史・公民	小田 綾乃	石川 聰彦	3年2組教室 (南棟2階)
分科会③	数学	横井 達生	小松原 多恵子	3年3組教室 (南棟2階)
分科会④	理科	鈴木 遼	浅倉 強志	3年4組教室 (南棟2階)
分科会⑤	保健体育	上土井 美樹	島田 龍次郎	化学実験室2 (南棟2階)
分科会⑥	外国語(英語)	関口 さやか	土江 康裕	生物地学室 (東棟2階)
分科会⑦	芸術・家庭・情報	吉田 笑理	村上 飛鳥	コンピュータ教室 (東棟2階)

公開研究授業 会場図





公開授業① 古典探究

教 科：国語科	科 目：古典探究	授業担当者：中村 麻由
単元名：武士の生き様と現代の共通点について考えよう。(『平家物語』「壇ノ浦」数研出版)		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

- ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。【知・技】 (1) ア
- ・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間に対する自分の考えを広げたり深めたりすること。【思・判・表】 読むこと 力
- ・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。【主】

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。【知・技】 (1) ア	読むことについて、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間に対する自分の考えを広げたり深めたりすること。【思・判・表】 読むこと 力	登場人物の行動や言動に注目し、人物像を考える活動を通して、人間に対する考えを広げたり深めたりしながら、自らの学習を粘り強く調整しようとしている。

3. 単元について

『平家物語』において、平家の敗者としての悲哀が語られる場面である。ここでは、武家として見苦しくなく最期を迎えるとする平家の人々の姿が活写されている。本教材では、助動詞や敬語表現にも注目しながら言動・行動を分析し、人物像を深く読み取ったうえで、「武士・武家」としての誇りを守り抜く人々について考えさせる機会としたい。(『平家物語』「壇ノ浦」数研出版)

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

(1) 「知識・技能」の指導と評価

- ・指導：グループで教えあいながら問題を解くことで、学びあいの場を設ける。
- ・評価：定期試験だけでなく、単元中に小テストを実施し評価する。

(2) 「思考・判断・表現」の指導と評価

- ・指導：補足資料の配布や、グループワークによって人物像を深められるようにする。
- ・評価：考えの道筋を辿れるよう、ワークシートを一つにまとめたものを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

- ・指導：前時までに考えた人物像と関連付けながら、考えを深める。
- ・評価：ループリック評価を行う。

5. 単元の指導と評価の計画（本時は、13時間扱いの12時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」(*形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
1	1 ～ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しを持つ。 ・敬語表現・助動詞等、新しい語句、文法事項の学習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標を知り、学習の見通しが持てるようになる。 ・本文の内容を深く理解するためには、敬語表現や助動詞の学習が必要であることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語表現についての確認をする。 ・本文に出てくる語句、新しく出てくる助動詞について学習する。 	<p>知 「行動の観察」「記述の分析」(◇)</p> <p>知 (1) ア 小テスト及び定期テスト(☆)</p> <p>ここでは、新しく学習した文法事項が身についているかを確認する。</p>
2	6 ～ 9	<ul style="list-style-type: none"> ・『平家物語』に関する基礎知識の確認をする。 ・「壇ノ浦」を読解しながら、問い合わせに答える。 ・ペアで問い合わせの答えを確認し、ロイロノートで提出する。 ・提出された回答を確認しながら答え合わせをする。 ・本文における助動詞や敬語表現も確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時からの本文読解のために「壇ノ浦」に至るまでの流れや、登場人物を理解させる。 ・まずは問い合わせに取り組む中で、「壇ノ浦」の大まかな流れを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「壇ノ浦」に至るまでの流れの確認をする。 ・登場人物の確認をする。 ・「壇ノ浦」の読解を個人で進める。 ・ペアで「壇ノ浦」の内容を確認する。 	<p>思 「行動の観察」「記述の分析」(◇)</p> <p>ここでは学習した文法事項や語彙を用いて、内容読解ができるかを判断する。</p>

3	1 0 ~ 1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物（「知盛」「二位殿」）の人物像を本文の言動を基に考える。 ・登場人物に関する追加資料を配布し、人物像をさらに深く考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・3人ずつのグループになり、「知盛」「時子」の人物像について考えをまとめる。 ・考えをまとめたものを簡単にスライドにまとめる。 ・ワールドカフェ方式で、他の班の発表を聞きに行く。 ・自分の班に戻り、他の班の意見を確認したうえで、個人で人物像について最後考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞や敬語表現にも着目して人物像を考えることを改めて確認する。 ・自分たちの班の考えとの共通点や相違点を意識しながら聞くことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の人物像を本文と配布した資料を基に考える。 ・他の班の考えを聞き、共有する。 ・他の班の考えを踏まえ、最後に自分の考えを書く。 	<p>思「行動の観察」「記述の分析」（☆）</p> <p>ここでは、人物像について、個人で気づいた内容を基にグループで話し合い、それを踏まえて考えを深めているかを分析する。</p> <p>※最終的には第12次に総括的に評価する。</p>
4	1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の内容を踏まえ、武士の生き様と現代の人々の生き方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習を通し、どのように考えが変化したか、また深められたかについて書くことを確認する。 		<p>主「記述の確認」（☆）</p> <p>学習前と学習後のワークシートにより、武士の生き様と現代人の生き方について、考えを広げたり深めたりしながら自らの学習を粘り強く調整し考えを深めようとしているかを確認する。</p>

6. 本時の目標／本時のねらい

他のグループの意見を自分のものと比較しながら聞き、人物像をさらに深める。

7. 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 今回の活動の確認をする。 グループごとに発表原稿の再確認をする。 		
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ワールドカフェ方式で、他の班の発表を聞く。(一回4分) 自分の班に戻り、他の班の意見を確認する。 いろいろな意見を踏まえたうえで、人物像を個人で考え、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表内容を、自分の班に共有することをあらかじめ伝える。 自分の班との共通点・相違点に注意しながら聞くように伝える。 	<p>思 「行動の観察」(◇) 「記述の分析」ワークシート(☆)</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 次回の内容の確認をする。 		

8. 今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

- 自ら探究できる力を育むため、授業でも比べ読みや、様々な視点から物語を読む等様々な手法を用いて授業を行った。
- 他者との話し合い活動を取り入れ、自己の考えと比較して聞き、考えを深めていけるよう意識している。

公開授業② 公共

教 科：地歴公民科	科 目：公共	授業担当者：永井 淳
単元名：政治参加と公正な世論の形成（選挙の意義と課題）		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

- ・現代社会の多様な問題を積極的に解決しようとする態度を育成する。
- ・他者（他の生徒、同級生）との協働学習を通じて、他者の意見を取り込みながら、問題解決力を涵養する。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・政治参加と公正な世論形成に関する現実社会の事柄や課題を理解している。・選挙権年齢が18歳以上であることを踏まえ、選挙の意義や、政治的無関心の危険性などについて理解している。・国会の地位と構成や権限、議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について、理解している。	<ul style="list-style-type: none">・選挙のしくみ、政党の役割、世論の形成について、さまざまな情報手段を活用して、考察、構想し、表現している。・地方自治には、直接民主制の考え方に基づくしくみが、国政よりも多く取り入れられていることを理解しつつ、地方自治の課題についても考察、構想し、表現している。	<ul style="list-style-type: none">・政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。・地域や国の課題について、自分自身の問題として理解し、解決するための具体的な行動をとっている。

3. 単元について

第2章（政治的な主体となる私たち）では、日本国憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する必要がある。さらに、この単元である「主題4 政治参加と公正な世論の形成」では、民主政治を推進するために果たすべき責任、選挙の意義や課題、世論の形成や政党の役割、主権者である国民と国会や内閣の関係、地域社会の課題に地域住民の意思を反映させるにはどうすればよいかを学び主権者としての資質と能力を育成する。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

(1) 「知識・技能」の指導と評価

- ・指導：教科書に加えて資料集も活用し、より幅広い知識と技能の涵養を行った。
- ・評価：定期試験での択一問題により評価することとする。

(2) 「思考・判断・表現」の指導と評価

- ・指導：授業用プリントで判断や表現を求めた。
- ・評価：定期テストに加え、授業用プリントの内容も評価することとする。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

- ・指導：グループ学習の作成物の方向性を事前に示した。
- ・評価：プリントの提出状況やグループ学習の作成物により評価することとする。

5. 単元の指導と評価の計画（本時は、8時間扱いの8時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」(*形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
1	選挙の意義と課題	選挙のしくみについて多面的に学べるよう留意する。	国政選挙の制度を理解し、その課題について学ぶ。	☆プリントの内容
2	政治参加と世論形成	公正な世論形成のため、メディア・リテラシーを身に付けることが重要であることを学べるよう留意する。	政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題について学ぶ。	☆プリントの内容
3	国会と立法	議員立法に関する内容にも触れる。	国会の地位と構成・権限について学ぶ。	☆プリントの内容
4	内閣と行政の民主化	議院内閣制の下、国会と内閣が十分に機能するための考察する機会を設ける。	議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について学ぶ。	☆プリントの内容
5	地方自治と住民の福祉	地方自治の課題についても触れる。	地方自治の運営状況について学ぶ。	☆プリントの内容
6 7 8	日本の選挙制度の現状と課題	5時間目までに身に付けた学習内容が発表用資料の作成に生かせるようアドバイスを行う	単元で学び、考察した内容を基に、グループ単位で発表資料を作成し、発表を行う。	☆発表用資料の内容 ◇他者（同級生）の評価

6. 本時の目標／本時のねらい

- ・単元で学び、考察した内容を他者との協同学習を通じて資料を作成し、発表することを通じて、学んだことの定着や新たな学びへのきっかけを作る。

7. 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (5分)	・発表用資料の準備		
展開 (40分)	・発表資料を用いて、グループごとに発表を行う。 ・他のグループの発表を見て短時間で評価を行う。	・各グループの発表が時間内に終わるよう気を付ける。	・発表に用いた資料が、必要事項を全て網羅した内容になっている。
まとめ (5分)	・発表用資料の提出 ・評価票の提出		

8. 今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

- ・令和7年になると、生徒も選挙権が付与される年齢になるので、選挙に興味関心を持ってもらう課題を設定し、グループごとの協働学習、発表を行うことにより、有権者（主権者）としての意識を高める授業とした。

公開授業③ 数学 A

教 科：数学	科 目：数学 A	授業担当者：安居院健太
単元名：場合の数と確率		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

他者とのやり取りを通じて、自分一人では困難な問題について協働して解決に導こうとする。

他者の意見や考え方を取り入れることで自分にはない視点を見つけようとする。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	場合の数と確率について不確実な事象に着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

3. 単元について

場合の数と確率について、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察できるように指導する。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

(1) 「知識・技能」の指導と評価

- ・指導：公式の確認や基本的な計算問題を反復学習させる。
- ・評価：定期テストにおいて基本的な概念を問う問題を通じて、知識・技能の定着を確認する。

(2) 「思考・判断・表現」の指導と評価

- ・指導：思考力を問うような問題を個人・グループで考えさせる活動を行う。
- ・評価：定期テストにおいて思考力を問うような問題を通じて、確率を多面的に考察できるか判断する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

- ・指導：タブレットやノートに思考の過程を書かせ、粘り強く考えさせる。
- ・評価：授業や提出物を通して問題解決しようとしているかを判断する。

5. 単元の指導と評価の計画（本時は、37時間扱いの33時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」(*形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
1~4	集合の要素の個数	集合を用いて組合せや確率の内容につながるので最初の導入は丁寧に時間をかけて学習する。	和集合・補集合についての集合の要素の個数	◇ワークシート、授業の最後の振り返りカード ☆授業内小テスト、定期テスト
5~8	場合の数	樹形図など図の利用を促す。	樹形図 和の法則 積の法則	◇ワークシート、授業の最後の振り返りカード
9~12	順列	並べ方に注意して問題に取り組ませる。	順列の総数、階乗 円順列 重複順列	◇ワークシート、授業の最後の振り返りカード
13~16	組合せ	順列から考えて、順列の順序を考えないようにするという考えを反復練習する。	組合せの総数 組み分け 同じものを含む順列 重複を許して作る組合せ	◇ワークシート、授業の最後の振り返りカード
17、18	事象と確率	集合とのかかわりについて意識させる	思考と事象 確率	◇ワークシート
19、20	確率の基本性質	確率は負や1以上の数を取らないことを認識させる。	排反事象 確率の加法定理 余事象	◇ワークシート、授業の最後の振り返りカード
21~25	独立な試行と確率	独立と独立でない試行を想像させる。	独立な試行の確率 反復試行の確率	◇ワークシート ☆授業内小テスト
26~30	条件付き確率	図や表を用いて視覚的にも考えさせる。	条件付き確率 確率の乗法定理	◇ワークシート ☆授業内小テスト
31、32	原因の確率	条件付き確率の復習をさせる。	原因の確率	◇ワークシート
33 (本時)	確率の応用	生徒に実験を通して感覚と式との相違を認識させる。	モンティホール問題	◇ワークシート、振り返りカード
34、35	期待値	宝くじなど現実の問題とのかかわりに触れる。	期待値	◇ワークシート、授業の最後の振り返りカード
36、37	章末問題		章末問題	☆授業内小テスト、定期テスト

6. 本時の目標／本時のねらい

・モンティホール問題を通して、グループで協力して問題解決しよう。

7. 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (5分)	確率についての復習		
展開 (40分)	モンティホール問題について実験する。 グループで話し合い、確率を予想して理由を考える。 他のグループと意見交換・共有を行い他者の考えを知る。 モンティホール問題について自ら取り組み、問題解決する。	生徒に予想を立てさせ、今までの知識をもとに考えさせる。 他者の意見を聞く機会を設ける。 感情的な意見ではなく、数学的な考察があるか判断させる。 教員からの誘導も利用して納得しながら進めるようにする。	グループでの取り組みを机間指導、作成したノートを閲覧する（主） ワークシートを提出する（主）
まとめ (5分)	本日の内容、ポイントを確認する。		振り返りカードを提出する（主）

8. 今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

- ここまで指導を通して授業では積極的にグループワークを実施してきた。生徒は小中学校時代でも協力して問題を解くことに慣れているため、より効果的なグループ活動の質について意識している。普段の授業では答えの齟齬を互いにチェックさせ、違う場合には互いに説明しあうことで立式や計算の手順のどこに不備があるのかを知る機会を設けている。グループで考えることにより他者の考えを知ることができ、問題解決においては相手に筋道を立てて説明することが必要となるので自分の解答について課題点を発見するなどの効果が実感できた。

公開授業④ 生物基礎

教 科： 理科	科 目： 生物基礎	授業担当者： 諸星 愛子
単元名：ヒトのからだの調節 情報の伝達と体内環境の維持		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

神経系と内分泌系による体内環境の調節のしくみをよく理解し、資料から読み取れることを主体的に学習し、発信しようとする。生徒に、日常の経験から意識することなく体内環境は調節されていることに気づかせ、それが何のためか、関心を向けさせ、思考させる。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">からだには体内環境の変化を情報として、組織や器官の間で受け渡しするしくみを学ぶ。恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について知識を深める。ヒトの神経系の種類・脳の各部位の働きについて理解し知識を深め、脳死・植物状態の関係について理解する。交感神経と副交感神経の分布と働きを理解している。ホルモン分泌のフィードバック調節について、チロキシンの分泌調節を例に理解している。インスリンの働きと、血糖濃度が一定の範囲内に保たれるしくみについて理解する。血糖濃度が自律神経系とホルモンによって調節されていることを理解している。	<ul style="list-style-type: none">からだには体内環境の変化を情報として、組織や器官の間で受け渡しするしくみがあることに気づく。ヒトの神経系の種類・脳の各部位の働きについて理解し、脳死・植物状態の関係について考えられる。体内環境の調節で交感神経と副交感神経の働きは、互いにどのような関係にあるか説明できる。資料から、インスリンの働きと、血糖濃度が一定の範囲内に保たれるしくみについて推測できる。資料から、血糖濃度調節では自律神経系による働きも関与していることを読み取ることができる。血糖濃度上昇時の自律神経系と内分泌系による血糖濃度調節のしくみについて説明できる。	<ul style="list-style-type: none">からだには体内環境の変化を情報として、組織や器官の間で受け渡しするしくみについて積極的に考えている。ヒトの神経系の種類・脳の各部位の働きと脳死・植物状態の関係について興味関心を持つ。体内環境の調節における、内分泌系と自律神経系の働きの違いを積極的に説明しようとしている。インスリンの働きと、血糖濃度が一定の範囲内に保たれるしくみについて、自ら資料を積極的に読み取ろうとする。血糖濃度調節における自律神経系と内分泌系の働きについて、資料から読み取れることを積極的に説明しようとしている。

<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の生じるしくみを理解している。また、糖尿病で尿中にグルコースが排出される原因を理解している。 ・体温が自律神経系と内分泌系によって調節されていることを理解している。 ・血液凝固のしくみを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の生じるしくみを理解している。また、糖尿病で尿中にグルコースが排出される原因を説明できる。 ・体温が自律神経系と内分泌系によって調節されていることを説明できる。 ・血液凝固のしくみについて説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の生じるしくみ、また、糖尿病で尿中にグルコースが排出される原因について興味関心を持つ。 ・体温が自律神経系と内分泌系によって調節されていることを理解しようとしている。 ・血液凝固のしくみについて積極的に説明しようとしている。
--	--	--

3. 単元について

ヒトのからだについて、体内環境をほぼ一定に保ち、からだの状態を安定に維持するために内分泌系と自律神経系が働いていることを理解する。また、それらの働きの違いを理解するとともに、これらが協調して働いていることを理解する。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

(1) 「知識・技能」の指導と評価

- ・指導：ヒトのからだの調節に関する基本項目を順序立てて整理し、全体の概略から理解を図り、細部の様々な名称、はたらきを視覚化すること、項目の強弱を明確にすることで定着を図る。
- ・評価：授業内容確認の穴埋め、振り返りを記入するプリントを毎時ロイロノートで配信している。プリントの提出状況、内容を通して取り組み具合、定着の程度を評価の対象とする。

(2) 「思考・判断・表現」の指導と評価

- ・指導：自律神経と内分泌系について、役割、効果を正しく理解し、仕組み全体を他者と協力し理解することで深め、自ら言語化、視覚化できるよう課題を設定する。授業の展開を図る。
- ・評価：学習を通して、内容の深い理解が進んでいるか、正しく判断するための材料の検討と選別が行われているか、言語化を積極的に行っているかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

- ・指導：授業内での取り組みを個人ベース、グループベースでそれぞれ実施している。それを組み合わせることで、個々の生徒にとって取り組みやすいものを見つけ、自らの変容を確認させるよう授業を構成している。
- ・評価：学習への取り組み状況。クラスでの役割と提出物の提出状況、記載の変化で見極め評価する。学習に対する計画性と順序立ての変化も評価する。

5. 単元の指導と評価の計画（本時は、10 時間扱いの 7 時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」(*形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
1	・体内環境と体外環境 ・恒常性～体内での情報伝達とからだの調節	恒常性～体内での情報伝達とからだの調節の関係を自ら考えさせる。	恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 体内での情報伝達とからだの調節の関係を見いだす。	◇からだには体内環境の変化を情報として、組織や器官で情報を伝達するしくみがあることに気づく。 ☆ロイロプリント
2	ヒトの神経系と脳 (大脑・小脳・脳幹)の働き	ヒトの神経系と脳 (大脑・小脳・脳幹)の働きについて関心を持たせる	ヒトの中枢神経系(脳と脊髄)と末梢神経系(体性神経と末梢神経)の知識を深める。	◇各神経の種類と働きについて脳の各部の働きについて知識を深める。☆ロイロプリント
3	脳死、自律神経系の働き	脳死、自律神経系の働きについて知識を深めさせる。	脳幹の働きと、脳死がどのような状態であるかについて理解する。 自律神経系の交感神経と副交感神経の分布と働きを理解している。	◇脳死・植物状態の関係について理解している。 ☆ロイロプリント
4	内分泌系による調節、フィードバック調節について学ぶ。	内分泌系による調節、フィードバック調節について関心を持たせる	内分泌系による調節、フィードバック調節について理解する	◇内分泌系による調節、フィードバック調節
5	体内環境の調節における、内分泌系と自律神経系の働きの違いについて学ぶ。	体内環境の維持について理解させる	体内環境の維持について理解する	☆体内環境の維持について理解できる ☆ロイロプリント
6	内分泌系ではホルモンは標的細胞に作用することを理解する。	ホルモンの働きと恒常性の関係を理解させる。	ホルモンの働きと恒常性の関係を見いだす。	◇ホルモンの働きと恒常性の関係を見いだす。☆ロイロプリント
7	血糖濃度調節とホルモン濃度の関係について学ぶ。	血糖濃度調節とホルモン濃度の関係について資料を読み取り、考察させる。	資料(グラフ)を読み取り、血糖濃度調節とホルモン濃度の関係を考察する。	◇資料(グラフ)を読み取り、インスリンの働きについて説明することができる。 ☆ロイロプリント
8	・血糖濃度調節と自律神経系の関わりについて ・糖尿病の症状、I型II型の分類	血糖濃度調節と自律神経系の関わりについて考察させる。 ・糖尿病の症状、I型II型の分類について知識を深めさせる。	血糖濃度の調節には、自律神経と内分泌系は協働して働いていることに気づかせる。 糖尿病の症状、I型II型の分類を理解する。	◇資料(血糖濃度調節の流れ図)を読み取り、血糖濃度調節と自律神経系の関わりについて考察する。 ☆ロイロプリント

9	体温の調節	体温調節のしくみについて知識を深めさせる。	体温調節のしくみについて理解する。	◇体温調節のしくみについて理解できる。 ☆ロイロプリント
10	血液凝固	血液凝固のしくみについて知識を深めさせる。	血液凝固のしくみについて理解する。	◇血液凝固のしくみについて理解できる。 ☆ロイロプリント

6. 本時の目標／本時のねらい

- ・血糖濃度とホルモン濃度の関係を考察する。

資料（グラフ）を読み取り、インスリンが血糖濃度を下げる働きを持つことに気づかせる。血糖濃度が上昇すると、インスリンが分泌されることで、血糖濃度が元の状態に戻ることを理解する。

7. 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (10分)	はじめに 配付プリントを使い、中学校で学習した、グルコースの吸収と体内での利用についての知識を復習する。	小腸から吸収されたグルコースは、血液によって全身の細胞に運ばれ、エネルギー源になることを復習させる。 低血糖についても説明する。	【主体】 ◇食事をすると血糖濃度はどうに変化すると考えられるか記入できる。正常な血糖濃度の値を記入できる。 (生徒配付ワークシート)
展開① (15分)	・配付プリントの資料（図1） 血糖濃度が食事後、急激に上昇していることに気づく。 インスリンを正常に分泌できないヒトは、健康なヒトに比べ、食後、血糖濃度が上昇した後にほとんど血糖濃度が低下していないことに気づく。	健康なヒトと、インスリンを正常に分泌できないヒトとでは、正常に分泌できないヒトはインスリン濃度が低い傾向にあることに気づかせる。 食事前後の血糖濃度の変化について比較、異なる点を挙げさせる。血糖濃度が上昇しなくなったあと変化にも着目させる。	【思・判・表】 ☆健康なヒトと、インスリンを正常に分泌できないヒトとで、食事前後の血糖濃度の変化について比較し、異なる点を漏れなく挙げができる。 (生徒配付ワークシート①)
展開② 15分	・配付プリントの資料（図②）を見て 食事後、血糖濃度が上昇し、健康なヒトはインスリン濃度が急激に上昇することに気づく。 配付プリントの資料（図①②）を見て ・インスリンが分泌される場合とされない場合を比較して、インスリンの働きを考察する。	食事後のインスリン濃度の変化は、健康なヒトとインスリンを正常に分泌できないヒトでどのような違いがあるか読み取らせる。 ・インスリンの働きについて個人で考えさせた後、グループで話し合わせる。いくつかのグループを指名し、根拠とともに考察を発表させる。	【思・判・表】 ☆それぞれのヒトで食事後のインスリン濃度の変化について比較し、異なる点を読み取ることができる。 (生徒配付ワークシート②) 【主体】 ☆資料から、インスリンの働きを論理的に説明することができる。 (生徒配付ワークシート③)

まとめ (10分)	・血糖濃度の調節に関するホルモンの働きを総合的に理解する。	・高血糖時にはインスリンが、低血糖時にはグルカゴンやアドレナリンなどのホルモンが働くことで血糖濃度が調節されることを説明する。	【知・技】 ☆血糖濃度の調節における各種ホルモンの働きを理解している。(生徒用ワークシート④)
----------------------	-------------------------------	---	---

8. 今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

- ・科学的な知識を十分に身に付け、論理的な考え方で問題解決できる力を育てる。
 適宜、説明や文章を書く場面をつくり、的確な表現力で他者とのやりとりを通じて多様な値観を尊重し、協働して課題解決できる能力の育成を目指している。将来、課題に直面した時にも、蓄積した知識を活用し、的確な情報を収集、それを視覚化、言語化して解決できる人物になってほしい。

公開授業⑤ 論理表現Ⅱ

教 科：外国語（英語）	科 目：論理・表現Ⅱ	授業担当者：井澤 拓海
単元名：Let's Find Out What We Can Do for Others		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

今日、多様な課題に立ち向かう地球市民として、互いに協力する必要性に気づき、課題解決の手段としてのボランティア活動へ参加すべきかどうかについて、多様な考えを踏まえて論証文を書くことができる。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">関係詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。ボランティア活動の参加の是非について、情報や自分の考えを理由や根拠とともに相手に伝える技能を身に付けています。	ボランティア活動の参加の是非について、読んだり聞いたりしたことを利用しながら、情報や自分の考えを理由や根拠とともに相手に伝わるように書くことができる。	ボランティア活動の参加の是非について、読んだり聞いたりしたことを利用しながら、情報や自分の考えを理由や根拠とともに相手に伝わるように話したり、書こうとしている。

3. 単元について

日本を含み、世界では多様な課題が表出している。地球上で生活を送る1人のグローバル人材として、互いの考え方や意見を尊重しながら、協力し合っていくことの必要性に気づき、行動することが大切である。世界の労働問題の現状を知ったうえで、身近に行うことのできるボランティア活動の是非について、状況に応じた論理の構成に合わせて文章を表現する力を身に付けさせたい。「書くこと」は一方向の活動ではない。学習支援ツールやペアのフィードバックといった異なる観点が、読み手に伝えたいことを効果的に書くことにつながるということに対して気づきを促す。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

（1）「知識・技能」の指導と評価

- 指導：読んだり聞いたりしたことをもとに、ライティング活動の基礎となる文法事項について、文脈を通して学習させる。「書くこと」については、生徒にトピックを提示して書いてくるように伝えるだけでは、課題のハードルが高い。そのため、段階的な手順を指導しつつ書くことに取り組ませたい。
- 評価：生徒の問題演習に取り組む姿勢だけでなく、成果物の記述やピアフィードバックの内容を分析することで、本単元で求められる知識・技能を見取りたい。

（2）「思考・判断・表現」の指導と評価

- 指導：状況に応じた論理の構成や展開を意識しながら、読み手に伝えたい内容を効果的に書くことを求められる。これまでの授業では体系的なライティング指導を十分に行えているとは言えない。Process Writing の過程を経験することを通して、書く内容の優先順位を検討しながら取り組ませる。本実践では、ピアフィードバックを活用することで、他者の視点や異なる価値観を共有できるようにする。

- 評価：ライティング活動については、学習者が文法事項や内容に関して、評価項目に従って適切に自らの成果物を評価することは難しい。しかしながら、教員がライティング活動の度に詳細なフィードバックを与えるのは、持続可能であるとは言えない。本単元では、学習支援ツールのライティングフィードバックの機能を活用することで、生徒のライティング活動を支援し、その有用性を検討させる。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

- 指導：これまで本科目では、授業で学習支援ツールのライティング活動を数回実施している。生徒は、文法の誤りや構造・内容に関連したフィードバックを確認して、次のライティングに上手く活かすことができない状況がある。一方で、英語ライティングの分野では、ピアレスポンスの有効性が広く認められているところではあるが、生徒同士が単語・文法の誤りを的確に指摘することは非常に困難である。ライティング活動に学習支援ツールとピアフィードバックを組み合わせることで、生徒の主体的な学びを向上させたい。
- 評価：構造マップ学習でのワークシートの記述、最初の原稿と最後の原稿でどのように内容を改善したかを書かせ、生徒のライティングの過程や変容を明らかにする。ロイロノートは、生徒の成果物を記録するうえで、実用的な機能を持つ。ピアフィードバックの効果や学習支援ツールのフィードバックが生徒の取り組みにどのような影響を与えたかを検証したい。

5. 単元の指導と評価の計画（本時は、5時間扱いの4時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」(*形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
1	<ul style="list-style-type: none"> チョコレートのフェアトレードに関する対話文を読んだり、聞いたりする。 ワークブックの問題演習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動をきっかけに世界の人たちの労働環境について考えさせるための問い合わせを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> フェアトレードに関する対話文を読んだり、聞いたりして、情報や考えに正しい知識を持つ。 関係詞の用法・語法を確認する。 	◇ワークブックの取り組み
2	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動の参加の是非について、ペアで意見交換を行う。 文章構成について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> Process Writing の段階的な手順にそって指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 序論→本論→結論の構成で書く。 	◇活動の観察
3	<ul style="list-style-type: none"> 書く内容を整理し、アウトラインを作成する。 ボランティア活動の参加の是非について、論証文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> モデル文を見せ、具体例や説明がどのように活用されているかを示し、作成の手順を再度確認することで見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 構造マップ学習 具体例や自分の考えを理由や根拠を用いて説得力のある意見を書く。 	☆問い合わせに対する記述(ライティング)

4	<ul style="list-style-type: none"> 文章構成について復習する。 ピアフィードバック・学習支援ツールによるフィードバック活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアでの活動、学習支援ツールの活用の有用性に気づきを与える展開になるとともに、それぞれの視点の違いに注目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2方向からのフィードバックを通して、多様な「他者」の価値観にふれ、自分の考えを改めて整理する。 	☆ワークシートの記述
5	<ul style="list-style-type: none"> フィードバックを踏まえて、同じテーマで再度、論証文の作成に取り組む。 振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 記述内容の変化や文法項目の修正事項の確認をするために、再度、ライティングに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 記述内容の変化や文法項目の修正事項を確認し、ペアでの活動、学習支援ツールの活用の有用性について検討する。 	☆問い合わせに対する記述(ライティング)

6. 本時の目標／本時のねらい

ボランティア活動の参加の是非について、読んだり聞いたりしたことを活用しながら、情報や自分の考えを理由や根拠とともに相手に伝わるように書くことができる。

7. 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】 評価方法
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 出席確認、あいさつをする。 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を共有し、学習に見通しをもたせる。 	
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのペアのライティングを読み、評価を行う。 ピアフィードバックを行う。 学習支援ツールで得られたフィードバックとピアフィードバックを比較する。 	<p>ライティングの確認項目をもとに、チェックさせる。項目が曖昧にならないよう例やモデルをあらかじめ示す。【確認手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の一番言いたいことがわかった場合はその箇所に緑色のアンダーラインを引く。 筆者の言いたいことがわからない箇所には、黄色のマーカーでアンダーラインをする。 文法や単語が間違っている場合には、ピンク色のマーカーを引く。 	【思】ワークシートの記述
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を振り返りシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ピアフィードバックを受けて、考えたこと・感じたことを記入させる。 <p>活動終了後、ワークシートをロイロノートの提出箱に提出させる。</p>	

8. 今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

これまで本科目では、様々なトピックでのライティング活動を行ってきた。しかしながら、教師として、生徒が書いてきたものの語彙・文法チェックが多くなってしまうということが現状としてある。生徒にとって、状況に応じた論理の構造で見通しを持って、英語の文章を書くことは、従来の文法・語彙の授業ではなかなか身に付けることはできない。今年度、学習支援ツールを導入したが、生徒は、文法の誤りや構造・内容を訂正する必要性がなく、フィードバックを次のライティングに繋げることができていない。ペアでの活動を意識してきたこれまでの経緯を活かし、他者の視点を組み合わせることで、英文の構造や論理性に対する関心を高めたい。

公開授業⑥ コミュニカティブスキルズ I

教 科：外国語（英語）	科 目：コミュニケーションスキルズ I	授業担当者：若杉 拓哉
単元名：UNIT 4 THIS IS MY FAMILY		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

- ・「家族」に関する基本的な語彙・表現や do/have とその否定文の使い方を身につけ、それらを使って書いたり話したりしようとする姿勢。
- ・発表を通して、話し手として自身の考えを相手に丁寧に伝え、聞き手として相手の発表がより良いものとなるために必要なことを提案することで、他者と協働して物事に取り組もうとする姿勢。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・家族に関する英文を読んだり聞いたりし、その内容を理解する技能を身につけている。・教材に登場する言語材料 (do/have とその否定文)を理解している。・教材に書かれている内容や関連する話題についての自身の考えを整理し、教材に登場する表現等を適切に用い、話したり書いたりする技能を身につけている。	<ul style="list-style-type: none">・写真や動画を見て、内容の描写や状況の推測について表現している。・各セクションの英文の内容について、学習した語句や表現を用いて自分の意見を話したり、書いたりしている。・家族に関するテーマについて、学習した語句や表現を用いて適切な発表資料と共に効果的にプレゼンテーションしている。	<ul style="list-style-type: none">・写真や動画を見て、内容の描写や状況の推測について表現しようとしている。・各セクションの英文の内容について、学習した語句や表現を用いて自分の意見を話したり、書いたりしようとしている。・家族に関するテーマについて、学習した語句や表現を用いて適切な発表資料と共に効果的にプレゼンテーションしようとしている。

3. 単元について

UNIT4 は“This Is My Family”である。UNIT1“What’s Your Favorite Video Games?”、UNIT2“This Place is Amazing”、UNIT3“Where’s the Lion?”に続く内容で、ここまで自分が好きなものや、自分が興味を持った国、動物、という視点でプレゼンテーションを扱ってきたが、今回は他者について説明することになる。自分にとって身近な他人が何を考えているのか関心を持つきっかけとさせたい。本単元で扱っている文法事項は do/have とその否定文である。本文での使用例を参考に、自分自身のプレゼンテーションにも含めさせることで文脈を活かした文法学習を行うことができるよう、丁寧に扱いたい。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

(1) 「知識・技能」の指導と評価

- ・指導：ALT との TT において、20 人の生徒に対して教員 2 名という手厚い体制を活かし、役割分担をしたうえで効果的な机間指導を行う。言語材料「do/have とその否定文」に関する設問への解答状況を踏まえ、必要に応じて適切に支援を行う。
- ・評価：授業で学習した言語材料「do/have とその否定文」をペアワークで適切に使用することができているか、動画で提出をさせる、個別の発表を実施する。

(2) 「思考・判断・表現」の指導と評価

- ・指導：相手に伝わる表現を行うことを念頭に、難解すぎる語彙や表現を用いることがないよう、注意させる。発表の原稿を作成し、その内容について指導する。表現自体に加え、発表の内容についても相手の目線に立った丁寧な説明がなされるよう、具体例を交えて説明を行う。
- ・評価：ペアやグループでの練習を実施する際に、他の生徒からのフィードバックを受けて語彙や表現を改めるべき点があるかどうか、振り返りを行う機会を設けてからプレゼンテーションを実施する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

- ・指導：よりよく伝えるためには何が必要か、仲間と協力して考える機会を設け、実際にその手立てを反映させる時間を与える。
- ・評価：自分一人で作った発表と、実際に発表してから自分で振り返り、仲間から建設的なアドバイスをもらい、内容をブラッシュアップした発表を比較することができるよう、動画で両方を記録する。

5. 単元の指導と評価の計画（本時は、5時間扱いの3時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」(*形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
1	UNIT 4 ①PREVIEW ②LANGUAGE FOCUS ③THE REAL WORLD	・ cousin、immediate family 等生徒によってはなじみのない語句の意味を文脈等から推測させる	①基本的な表現の導入 ②リスニングと音読、do/have とその否定文 ③ビデオに関するペアワークや内容理解問題	◇②③机間指導
2	UNIT 4 ①READING ②COMPREHENSION ③VOCABULARY	・ 設問の意味が理解できない生徒の支援を行う	①関連英文のリーディング ②内容理解の QA ③語彙・表現の拡充	◇②③机間指導
3	①ミニプレゼンテーション	・ 本時の活動の目的を確認し、活動内容を順に示していく	①各 UNIT 終了時に実施しているプレゼンテーションのための練習	◇机間指導 ☆動画の提出
4	①UNIT 4 REVIEW ②プレゼンテーション準備	・ do/have とその否定文をはじめとする事項の定着状況の確認を行う ・ プrezentation の内容について、前時の練習内容を踏まえるよう確認する	①ユニット全体の復習 ②UNIT 4 関連テーマに関するプレゼンテーション実施に向けた準備	◇①②机間指導 ☆②発表資料の提出
5	①プレゼンテーション	・ 開始時に留意事項を再度、周知する	①プレゼンテーションの実施およびクラス	◇全体に向けたフィードバック

			メイトの発表を聞くことで今後の自身の発表に生かせる点を発見する	◇個別のフィードバック ☆ループリックを用いた発表の評価
--	--	--	---------------------------------	---------------------------------

6. 本時の目標／本時のねらい

- ・情報を発信する側として、相手の目線に立って理解しやすい語彙や表現を用いる姿勢。
- ・情報を受け取る側として、適切にフィードバックを行い、相手および自身の今後のことより良い情報発信につなげようとする姿勢。

7. 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で行うプレゼンテーションの準備 ・この時点での発表を動画で撮影し、提出する ・この時点での資料および原稿を提出する 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で行うプレゼンテーションの主旨を丁寧に伝え、「易しい」「自分が理解できる」「短めの」英文を心がけられるようにする。 	<p>【知識技能】 発表資料・原稿の提出 【思考判断表現】 動画の提出 【主体的】 発表資料・原稿の提出 動画の提出</p>
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワーク(10分×3回+移動時間) ペアでの相互の発表の中で、相手へのアドバイスおよび自身での振り返りを行う。 新たなペアとのペアワークにおいて反映できるよう、準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイス、自身の振り返りは「内容について・英文について、どちらでも良い」、「伝えたい内容をよりよく伝えるため」のものであることを理解させる。 	<p>【主体的】 ペアワークの観察</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的に完成した発表を動画で撮影し、提出する ・最終的に完成した資料および原稿を提出する 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で行った学習活動を振り返り、「しっかりと伝える」ための発表となるよう心がけさせる 	<p>【知識技能】 発表資料・原稿の提出 【思考判断表現】 動画の提出 【主体的】 発表資料・原稿の提出 動画の提出</p>

8. 今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

- ・考え方や物の見方をより多くの人と共有することができるよう、ペアやグループで学習活動にあたる時間を多く設けている。
- ・ペアやグループで考える時間に加え、自身の考え方や答えの変容について気が付くことができるよう、自分自身の考え方をまとめる機会をその前後にも設ける。

公開授業⑦ 保健

教 科：保健体育	科 目：保健	授業担当者：加藤 智大
単元名：1 単元 現代社会と健康 13 精神疾患の予防		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

精神疾患を予防する方法について理解し、他者とのやり取りを通じて、多様な価値観を受け入れたうえで、精神疾患の早期発見のために必要なことについて考え、説明できるようになる。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>①精神疾患は心理的、生物的、社会的な機能の障害などが原因となり精神活動が不全になった状態であること、若年で発症する疾患が多く、誰もが罹患しうること、適切な対処により回復が可能であることなどについて理解したことを書いたり書いたりしている。</p> <p>②精神疾患の予防と回復には、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くことなどが重要であることや、できるだけ早期に専門家に援助を求めることが有效であることについて理解したことを書いたり書いたりしている。</p> <p>③人々が精神疾患について正しく理解するとともに、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えることが重要であることなどについて理解したことを書いたり書いたりしている。</p>	<p>①精神疾患と予防における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、他や社会の課題を発見している。</p> <p>②精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えるための対策を整理して他者に伝えている。</p>	<p>①精神疾患の特徴、精神疾患への対処について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

3. 単元について

おもな精神疾患と要因、予防と治療、また精神保健の今日的課題について学ぶとともに、精神疾患の適切なケアのための社会環境について考える。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

(1) 「知識・技能」の指導と評価

- ・指導：スライドを活用した講義のメモ（授業メモ）を取り、振り返りの回答をすることで基本的な知識の定着をはかる。
- ・評価：振り返りシートの回答・定期試験

(2) 「思考・判断・表現」の指導と評価

- ・指導：スライドを活用した講義のメモ（授業メモ）を取っている。他者の考え方や意見を受容しつつ、事故の考え方を持って振り返りシートや課題に取り組んでいる。
- ・評価：授業メモの作成・振り返りシートの回答・課題の提出・定期試験

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

- ・指導：主体的に学習内容の授業メモを取っている。ペアワークやグループワークを積極的におこない、他者の考え方を聴いたり、自己の考え方を述べたりしている。
- ・評価：授業メモの作成・観察・定期試験

5. 単元の指導と評価の計画（本時は、3 時間扱いの 2 時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」（*形成的評価）、☆は「*記録に残す評価」（総括的評価）

時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
1	精神疾患の特徴	授業内容の要点や関心事をメモする。 振り返りシート本時の学習内容や自身の考えを整理してまとめる。	精神疾患の例をあげ、発病の要因と主な症状について説明できる。 現代社会における精神保健の課題をあげることができる。	◇授業メモ ◇☆振り返りの回答
2	精神疾患の予防	授業内容の要点や関心事をメモする。 他者の考え方を受容して単元内容の理解を深め、自身の考え方を整理して課題に取り組む。 振り返りシート本時の学習内容や自身の考え方を整理してまとめる。	精神疾患を予防する方法について説明できる。 精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。	◇授業メモ ◇課題の作成と提出 ◇☆振り返りの回答
3	精神疾患からの回復	授業内容の要点や関心事をメモする。 振り返りシート本時の学習内容や自身の考え方を整理してまとめる。	精神疾患の治療について例をあげて説明できる。 精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。	◇授業メモ ◇☆振り返りの回答

6. 本時の目標／本時のねらい

- 精神疾患を予防する方法について理解し、他者とのやり取りを通じて、多様な価値観を受け入れたうえで、精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できるようになる。

7. 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (10分)	・心身相関について理解する。	・心と体は相互に影響を及ぼし合うものであることを理解する。	◊授業メモ
展開 (25分)	・調和のとれた規則的な生活の重要性について理解する。 ・精神疾患の早期発見と早期治療の重要性について理解する。	・ストレスと精神疾患の関係について「日常的ストレス」「ライフイベント」「ストレスに耐えられる限界ライン」の3つについて理解し、自身のストレス緩和方法について考える。 ・精神疾患の患者数が年々増加傾向にあること、専門の医療機関が増えていること、その割には精神科医療機関への受診率は低いことについて理解するとともに、受診率の低い原因について考える。	◊授業メモ ◊授業メモ
まとめ (15分)	・精神疾患の早期受診を促すキャンペーンポスターを考える。 ・授業メモの提出。 ・振り返りの回答。	・ペアワーク／グループワークで精神疾患の早期受診を促すポスターのメッセージを考え書き込み、キャンペーンポスターを完成させる。	◊ロイロノートで配信された課題「精神疾患の早期受診を促すポスター」の作成と提出 ◊授業メモ ◊☆振り返りの回答

8. 今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

- ICTを活用して情報を明確に示して学習者自身の関心と理解が高まるようにし、後のペアワーク／グループワークによって他者の考えに触れることで、本時の学習内容について、他者の考えを受容したうえで、自己の理解が深まることを期待している。

公開授業⑧ 情報 I

教 科：情報	科 目：情報 I	授業担当者：早川 康人
単元名：第4章 ネットワーク「21 情報システムを支えるデータベース」 ※家庭基礎 第6章食生活をつくる「6-2 世界の食文化」と横断		

1. 本単元で育成したい資質・能力 【目指すべき生徒の学ぶ姿】

- ・データベースやDBMS（データベース管理システム）について理解している。
- ・身近なデータベースについて、例を挙げて説明することができる。
- ・ビックデータやオープンデータについての違いや、それらの活用について説明できる。
- ・オープンデータをダウンロードして、分析する実習に意欲的に取り組んでいる。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・情報システムにおけるデータの位置付け、データを蓄積、管理、提供するデータベースについて理解している。・情報システムにおけるデータの重要性とその利用方法について理解している。・AI（ChatGPT）を用いた調理実習の献立提案において、AIの使用方法と活用実績から、「正しい利用方法」を理解している。	<ul style="list-style-type: none">・身近なデータベースについて例を挙げて説明することができる。・ビックデータやオープンデータについて違いやそれらの活用について説明できる。・AI（ChatGPT）を用いた調理実習の献立提案において、AIの使用方法と活用実績から、「正しい利用方法」を模索するため、発表資料（Google サイト）にまとめてある。	<ul style="list-style-type: none">・オープンデータをダウンロードして分析する実習に意欲的に取り組んでいる。・現代におけるデータベースへの「過剰で誤ったデータの蓄積」における諸課題を主体的に解決しようとしている。・AI（ChatGPT）による調理実習の献立提案を受け、調理の実現に向けグループで協働している。

3. 単元について

- ・12月に台湾修学旅行を控え、第4章ネットワークにて、AI（人工知能）を活用した、生徒同士の味覚の共有をグループ学習として実施する。
※「家庭基礎」における単元目標は、「世界の食文化に关心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。」である。

4. 単元計画における指導と評価の工夫点

（1）「知識・技能」の指導と評価

- ・指導：教科書に加え、AI（ChatGPT）を活用し、より幅広い知識と技能の育成を行った。
- ・評価：定期試験での択一問題により評価する。

（2）「思考・判断・表現」の指導と評価

- ・指導：デジタルノート（生徒配布用 Google スライド）で判断や表現を求めた。
- ・評価：定期試験に加え、実習結果やデジタルノートへまとめた内容（考察・分析結果）も評価する。

（3）「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

- ・指導：グループ学習の作成物（Google サイト）の方向性を事前に示した。
- ・評価：e-ポートフォリオの提出状況やグループ学習の作成物により評価する。

5. 単元の指導と評価の計画（本時は、10 時間扱いの 8 時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」(*形成的評価)、☆は「*記録に残す評価」(総括的評価)

時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
1	ネットワークとプロトコル	身の回りの情報システムについて多面的に学べるよう留意する。	「LAN と WAN」「集中処理と分散処理」「サーバの利用」を学ぶ。	☆デジタルノート
	インターネットの仕組み	ビックデータやオープンデータについて違いやそれらの活用を身に付けることが重要であることを学べるよう留意する。	「IP アドレス」「ドメイン名と名前解決」「ネットワークの経路」を学ぶ。	☆デジタルノート ◇コマンドプロンプトを用いた実習
2	Web ページの閲覧とメールの送受信	メール内容の定型文に触れる。	「Web ページの閲覧の仕組み」「電子メールの送受信の仕組み」を学ぶ。	☆デジタルノート ◇電子メール実習
	情報システム	SQL を使ったデータの抽出方法を学ぶ機会を設ける。	「情報システムの例」を学ぶ。	☆デジタルノート
3	情報システムを支えるデータベース	3 時間目の AI 実習で、正しい活用を促す。	「データベースとその役割」「蓄積されたデータの活用」を学ぶ。	☆AI 活用実習
4		5・6 時間目の調理実習学習内容を考察し、発表用資料の作成に生かせるようアドバイスを行う。	本単元で学び考察した内容を基に、グループ単位で発表資料を作成し、発表を行う。	◇調理実習 ☆発表用資料の内容 Google サイト ◇他己評価
5				
6				
7				
8				
9	データベースの仕組み	第 6 章で学ぶプログラミング言語「Python」に触れる。	「リレーショナルデータベースの特徴」「リレーショナルデータベースの操作」を学ぶ。	☆デジタルノート ◇Spotify を用いた SQL 実習
10	個人による安全対策	海外修学旅行を控え、コンピュータウイルスに感染しないための「適切な対策方法」に触れる。	「パスワード管理」「コンピュータウイルス、ウイルス対策ソフト」「不正アクセスへの対策」を学ぶ。	☆デジタルノート ◇パスワード作成実習
	安全のための情報技術	普段の生活に使われている暗号化の仕組みについて、簡単に理解できるよう留意する。	「フィルタリング、電子透かしなどの技術」「パリティピット」「暗号化やデジタル署名」を学ぶ。	☆デジタルノート ◇暗号化実習

6. 本時の目標／本時のねらい

- ・単元で学び、考察した内容を他者との協同学習を通じて資料を作成し、発表することを通じて、学んだことの定着や新たな学びへのきっかけを作る。

7. 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (5分)	・調理実習「AI を活用した台湾料理の献立作成、および調理とその考察」を振り返る。	ChatGPT の実習前後の活用方法を踏まえ、高校生にとって最良な活用法の模索を促す。	
展開 (10分)	発表練習		
展開 (30分)	・各グループで「2分プレゼン」を実施する。 ・聴衆は「他己評価」を行う。	・各グループの発表が時間内に終わるよう気を付ける。	・発表に用いた資料が、必要事項を全て網羅した内容になっている。
まとめ (5分)	・発表用資料の提出 ・他己評価の提出 ・e-ポートフォリオの入力		

8. 今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

- ・AI は生徒にとって身近にあるもので、ChatGPT を活用することで、調理実習後の情報分析にも繋げていきたい。
- ・AI が単なる検索エンジンの延長線上にあるものではなく、生徒一人ひとりの感性を育てながらも自主性を育てるものになるような足掛かりにしていきたい。

指導・助言者

・田中 秀樹 指導主事 〈外国語(英語)科〉

教育局指導部 高校教育課 国際・情報教育グループ

本日は、横浜氷取沢高等学校公開授業にご参加いただきありがとうございました。

以下の 2 次元コードより、アンケートにお答えいただけますと幸いです。

横浜氷取沢高校グローバル教育研究推進チーム

